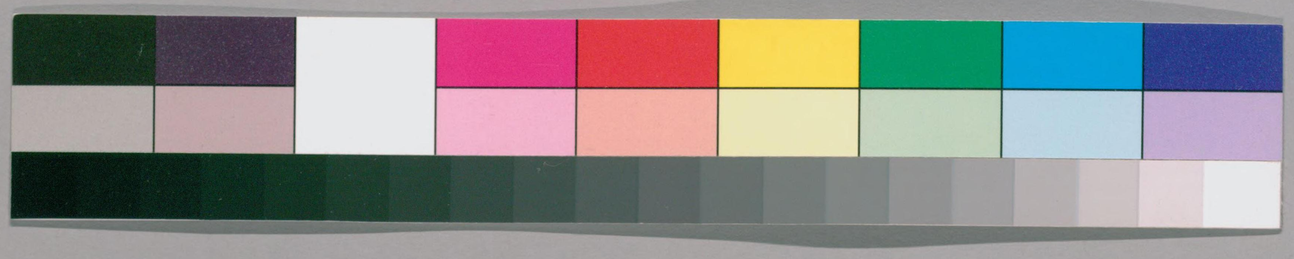


ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72

鯨鮫史稿

130
6
72

東京圖書館
和書門
類 一三〇 函 五四 架 七二 號 六 冊

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

明治十九年一月十六日購求

鯨史稿目録

巻之一

釋名第一　此篇釋ス鯨ノ名義ヲ
和名
漢名
朝鮮名
梵名
剌甸(ラテン)名
卧兒狼德(グルウンランドノ)名

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

和蘭(ヲランダノ)名

北亜墨利加(イルアメリカ)オンデレイツケノ名

卷之二

釋種第二 此篇釋ス鯨ノ種類ヲ

鯨魚種族諸説異同表

一 世美(セミ) 有圖

二 座頭(ザトウ) 有圖

三 長須(ス) 有圖

二種アリ

白長須

似タリ

四 兒鯨 有圖

二種アリ

青サキ 有圖

シヤレ 有圖

五 鰯鯨(シヤレ) 有圖

以上五種七品是ヲ鯨鯢ノ正種トス

俗鯨ト呼ナシテ其實鯨ニ非ルモノ

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72

ガラス使用

別ニ附録トナシテ左ニ載ス

附録

真向(マツコウ)鯨 有レ圖

槌(ツチ)鯨 有レ図

赤坊(アカバウ)鯨 有レ図

サカマタ 有レ図

ゴト鯨 有レ図

ナイサゴトウ

シホゴトウ

オホナンゴトウ

スナメリ鯨 有レ図

蜈蚣(ムカデ)鯨

卷之三

釋體第三 此篇釋ス鯨ノ形體ヲ

鯨魚全身圖

頭(カバチ)

腦(ノウミソ)

鼻 鼻中隔(シヤウシ)

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72

ガラス使用

下腮（ハシ）
脣（タナ）
口
齒（ヒケ）有図
齦（ハクキ）
舌（サユツリ）
目
耳（ミヽ）耳垢

右第一段頭ノ部ヲ釋ス

頷旁鰭（タツパ）有図

右第二段アラノ部ヲ釋ス

脊上鰭（イボ）
臍（ハソノオ）臍帶
胞（エナ）
陰所（カ）陰莖（ケツ）陰囊（ツウ）
陰戸（カ）産（ツウ）絞給（ハタ）精
乳房
糞門

右第三段大骨ノ部ヲ釋ス

尾

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

右第四段丸切ノ部ヲ釋ス

皮

肉

骨

頭骨　觜骨　蕪骨　蓮花骨　桃灯骨

カメ骨　胷骨　ブラ骨　扇骨　立羽

アラ　阿腹骨　アシ　ツヽロ骨

骨ノ内　坊主骨　輪骨

大骨　開ノ内　ゲラ骨　各有図

丸切　握骨

神經

脂

右鯨魚ノ全體ヲ通釋ス

臟腑　有図

氣管

心

肝

脾

肺

腎

胃

膽

大小腸（オホワタヒロクヒロ）
子宮（ユブクロ）
右鯨魚ノ内景ヲ釋ス

巻之四

附録第四

世界捕鯨ノ地

大日本

支那海南（ハイナム）

亞米利加（アメリカ）諸島

臥兒狼徳（グルウンラント）新増白蠟尖山（ノーハセンブラスビツヘルケン）

大日本捕鯨ノ地

東海道

伊勢州

三河州

駿河州

安房州

勝山

上総州

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

下総州
銚子
常陸州
東山道
陸奥州
磐城
南海道
紀伊州
熊野

大地（タイチ）浦
古座（コザ）浦
三輪崎
土佐州
津呂
久保津
北陸道
能登州
小木（オギ）浦

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

越後州
高濵
山陰道
丹後州
伊根
但馬州
隱岐州
山陽道
長門州

通ヒ
瀬戸崎
川尻
津島

西海道
筑前州
搗目大嶋
小呂島
肥前州

唐津領
小川島
馬渡島（マタラ）
平戸領
津吉
生月島（イキツキ）
的山大島（アツチノ）
小植賀（コチカ）
大村領

栁浦
榎島（エノ）
平島
五島領
魚目
有川
宇久島
板部ノ大島
柏崎

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

黑瀬

網場（アバ） 五島領ニハ非ス

薩摩州

二島

壹岐州

前海浦

勝本（カチモト）浦

對馬州

鰐（ワニノ）浦

廻（マワリ）浦

伊奈浦

洋中鯨路（ウミナカノクチラミチ）

捕鯨之候（クヂラヲトルジセツ）

捕鯨叙原（クヂラヲトルヲコリ）

起業賊力（クヲヲタツルモトイリ）

捕鯨擇地（リヤウハノミタテ） 有レ図

漁場屋舍（リヤウバノナヤノ〳〵）

大納屋

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72

ガラス使用

苫
米釜
水桶
風呂
煉(ネリ)釜
壺
大切(タイリ)庖丁 有レ図
小切庖丁 有レ図
釣棒(カキ) 有レ図

赤身持 有レ図
臓籠 有レ図
股火箸 有レ図
火カキ 有レ図
タブ 有レ図
油汲桶 有レ図
油柄杓 有レ図
万力車(シャチ) 有レ図
以上ノ諸品大納屋仕込ノ大畧

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

小納屋
頭(カシラ)納屋
肋(アバラ)納屋
骨納屋
筋納屋
段切 有ル図
脊剝(ハギ)斧 有ル図
脊叩(タタキ)鉈 有ル図
肋(アバラ)剝(ハギ) 有ル図

萬力 有ル図
納屋鉤(カギ) 有ル図
筋(スジ)サキ 有ル図

以上ノ諸品小納屋仕込ノ大畧

樽納屋
大工納屋
鍛冶納屋
道具納屋
シメ納屋

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

巻之五

附録第五

漁船（ギョウセン）

追船 有レ図

櫓

舵（カヂ）

帆柱

四段帆

海丈（カイタケ）

苫

櫓櫂（ロカイ）

入レ子

水桶

釜

風呂

鉈（ナタ）

鑿（ノミ）

ミルシ 有レ図

小指（サシ）有図

竿

萬鉾（ヨロツモリ）有図

早鉾（ハヤ）有図

劒（ケン）有図

手形切庖丁有図

カリ棒

加賀苧

シラセ

糧米

以上ノ諸品追舩仕込ノ大畧

雙海舩（サウカイフネ）有図

網有図

網葉（アバ）有図

雙海附（ツキ）

持雙舩（モツサウフネ）

扣持雙（ヒカエノ）

漁場職掌（リヤウバノヤクく）

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72

ガラス使用

大別當
別當
小部頭兼道具造
帳役
魚店掛
釜掛
與小部
魚切親父
本魚切

中切
網指
飯焼
追廻
火番
羽指

一番親父
二番親父
三番親父

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

御戸(ミト)親父
羽差見習
水夫(カコ)
魚見
鯨部總稱(クヂラクミノミヤウモノ)

卷之六

附録第六

捕鯨
山見ノ圖
追舩鯨ヲ取圍タル圖
雙海網ヲ打廻ス圖
捕鯨惣掛リノ圖
持雙舩鯨ヲ釣アケ引舩ニテ牽圖
鯨ヲ納屋前エ引寄セ切捌圖
捕子母鯨(コモチクヂラヲトラフ)
量鯨長短(クヂラノシヤクヲトル) 有図
魚品定格(ウヲノクライサタメカタ)
鯨魚解法(クヂラノサハキカタ) 有図

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

鯨史稿目録畢

鯨部寓兵 クヂラクミ ヘイヲヨス

各舎分司 有図 ヤクノシハイ
鯨肉斤両 クヂラノメカタ
鯨身諸具用法 クヂラノミンレ〳〵モチヒカタ
舎内各務 ヤウチノレヂト
食鯨始末 クヂラヲシヨクスルユライ
鯨肉調理 クヂラノリヤウリヤウ
雑記

漁父踏 有図 ハザレヲドリ
論大銃斃鯨 ヲホヅツ、クヂラヲウツノロンス

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

鯨史稿卷之一

大槻準編輯

釋名第一

久治良（ヂラ）日本書紀作ル區施羅本草和名和名類聚抄並ニ作ル久知良ニ

古事記　神武天皇ノ大御歌久治良佐夜流

按ニ世界ニテ鯨魚ヲ稱シタルヿ佛經ノ外ハ我國ヲ以テ最モ古ルシトス第四卷中捕鯨叙原ニ詳カナリ然ルニ久治良ノ義諸說一ナラス畢竟其義詳カナラサル故ナリ然ルヲ或ハ久

治良ハ黒白ノ略語ニシテ其色ヲ以テ名ク
ト云鯨記アリヨレ其説ノ當否ハ姑ラク置テ
國語ヲ以テ國語ヲ解スルハ猶得タリ又紅
毛(オランダ)ノ義ニテ肉色ヲ以テ名付或ハ又九尋(クジン)羅(ラ)
ノ義ニシテ其形チニ因テ名ツクト云(共ニ日東
奥譜アリヨレハ他邦ノ字音ヲ以テ我上代ノ
語ヲ解スル固ヨリ當ラス甚シクハ和蘭ノ語
ガシロットノ轉ナラント云(増譯采覽異言ハ
之ヲ載ス)
何ソヤ抑西洋ノ人我
國アルヿハ元ノ世
祖ノ時ニ當テ始テ知リ又和蘭ノ我國ニ
始テ來リシハ僅ニ二百年ニ及ベリ(蘭學階梯ニ見
エタリ)ジラハ固ヨリ我上代ノ語ナレハ若
シ或ハ和蘭ノガシロットハ我國クシラノ
轉ナラント云ハ猶可ナリ然ルヲクジラ
ハガシロットノ轉ト云ハ我國クシラヲ稱
スルヿ已ニ歐羅巴(ヨウロッパ)ノ革命ニ先ツヿ六百五
十餘年ナルヿヲ知ラサル故ナリ思ハサル
ノ甚シ

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

伊須久波斯

古事記伊須久波斯久治良佐夜流 即チ神武天皇ノ大御歌

勇細鯨觸といふえくちらハ鰐なとのことく畏けにあらねと淮南子にこれを魚王也ともいへる如く大魚の長なれハはめて勇魚とはいふ魚志さて本紀をもくてふ名にほむる辭を冠らせぬひしえ○伊須は伊左武なるを左武反須なれは約めて伊須といへり仍て萬葉に言を勇魚と書り久波斯とは名細花細なといふ如く其物をはむる語え 冠辭考

按ニイスクハシハ鯨魚ヲホメタル辭ニシテ鯨魚ノ名ニ非ス然レ𪜈勇魚取ト云語ノヨリ來ル所ナレハ之ヲ此ニ載ス

異舍儺

允恭紀衣通郎姫歌異舍儺等利宇彌能波摩毛能

按ニイサナト云語ヲ萬葉集ニ種々ニ書ケリ

鯨魚

ト書タルハ人麿ノ歌ニ鯨魚取或本勇魚取ニ作ル海邊乎指而天智天皇ノ大后ノ御歌鯨魚取淡海乃海乎又

勇魚

ト書タルハ即チ上ニ引ク所人麿ノ歌或ル本笠ノ朝臣金村ノ歌勇魚取海路爾出而又

不知魚

ト書タルハ車ノ朝臣千年ノ歌不知魚取海道荷出而又不知魚取海之濱邊爾浦裳无又

伊佐魚

ト書タルハ昨日許曾敷奈底婆勢之可伊佐魚取比治奇乃奈太乎今日見都流香母等ナリ

伊佐奈ハ鯨をほめたる辭にて且海つ物の中にかゝる魚王の鯨とるおもて大海の稱言

として冠とせしなるへしさそその海をつ
いくるより轉(ウツリ)る濱(ハマ)をも灘(ナダ)ともいふは冠辭
の例んそゝ中に淡海(アフミ)に鯨はなけ雜ハたゝ
海をふ語に隔(ヘタ)をつゝけしなるへし 冠辭考
按ニ此說ニ據ルサハ大和本草ニ淡海ノ
湖ニイリナトリヲヨメルハ礒菜取ナリ
ト云說ハ謬ナリ
壹岐國風土記ニ曰ク俗以鯨ヲ為伊佐ハ
ヱビスカミ

鯨好テ食フニ鰊魚ヲ松前之地鰊時與ニ漁舟一雜遝シ而浮フ其
性寬柔不レ傷レ人ヲ俗呼テ曰フニ蛭子神(エビスカミト)一 蝦夷風土記
按ニ伊豆海濱ノ俗モ鯨ヲヱビスト呼為ス
ト云
フンベ
蝦夷方言
フミハ音響(ヲンヒヾキ)ノフベハシヤベシベカスベノ
類鯨ヲフンベト呼フハ潮ヲ吹トキノ音ヲ
聞テ名ケタルベシト青木某ノ說ナリ

右和名

鱷鯢說文鱷或从京

左傳宣公十二年取鱷鯢而封之註鱷鯢大魚蹴雄曰鱷雌曰鯢

鄧析子釣鯨鯢者不居清池池非鯨鯢之泉也

淮南子鯨鯢魚之王也

魏武四時食制東海有大魚如山長五六里謂之鯨鯢格致鏡原

按ニ鯨鯢散文ニハ雌雄ノ別タス互ニ通シ

用工

京埤雅廣要今文作鯨漢書省作京正字通以鯷為鯨別作鰹並非

鯨从京京大也爾雅翼

鯨海魚也大者長千里小者數千步一生數萬子常以五月六月就岸邊生子至七月八月導引其子還大海中鼓浪成雷噴沫成雨水族驚畏一皆逃匿莫敢當者古今註

按ニ此說妄誕固ヨリ證ヲ取ルニ足ラス然ト雖モ諸家鯨ヲ說ク者皆此說ヲ祖トス故ニ

今姑ク之ヲ擧クコレヲ取ルニハ非ス

開元宋雷州有雷公與鯨鬪身出水上雷公數十在空中上下或縱火或詬擊七日方罷海邊居人往看不知二者何勝但見海水正赤（出廣異記。太平廣記）

按ニ是亦妄說ノミ

鯢

鯢者鯨之雌亦長千里說文以鱷為海大魚或从京鯢刺魚也則似異類然或各即其異者而言之

鯨志曰納魚一名鯢與此同名異物（納當作納）

按ニ通志昆蟲草木略（蟲魚類）鯢ノ下ニ爾雅云鯢大者曰蝦即雌鯨也此說謬ル本草綱目云鯢即鯑魚能上樹者蜀人名鮒秦人名鰨ト然ラハ鮒魚固ヨリ鯢ノ名ヤリ唯玉篇ニ鮒鯨也ト云フハ反テ鮒ノ以テ鯨ノ一名トスルニ似タリ然ルニ正字通ニ篇海及改併五音謂鮒即鯨非ト云ヘハ鮒固ヨリ鯨ノ一名ニ非ス意フニ玉篇等ニ鮒ヲ以テ鯨トスルハ

鯢ノ名ニ因テ謬ルカ鮒魚ハ俗ニ云フ山椒魚、十
リ

鯨魚

淮南子鯨魚死而彗星出ツ

揚雄傳騎ス京魚ニ

西京賦鯨魚失テ流ヲ而蹉跎文選

漢武昆明池養フ魚ヲ往々飛ヒ去レ後刻メ石ヲ為ニ鯨魚ト置ク水
中ニ魚乃不ニ飛ヒ去ラ毎ニ雷雨鯨常ニ鳴吼鬣及皆動ク西京雜記

三輔舊事清淵ノ北有ニ鯨魚刻メ石ヲ為ニ之長サ三丈爾雅翼

朝野僉載開元ノ初石鯨吼ニ歳大熟格致鏡原

按ニ西京雜記以下ハ石鯨ノ謂ヘリ

東京賦發ニ鯨魚鏗華鐘ヲ文選

海畔之獸有ニ蒲牢者大聲如ニ鐘ノ而性畏ニ鯨ヲ食ニ於
海畔ニ鯨魚或躍リ蒲牢輒チ鳴故ニ鑄ニ鐘ヲ欲スル聲大ヲ者作ル
蒲字ノ形ヲ其上ニ斲ヲ撞ヲ為ニ鯨ノ形ヲ天子出ニ則擊ツ之ヲ故ニ因テ
謂フ鐘之撞テ為ニ鯨魚ト東都ノ賦曰ク發ニ鯨魚ヲ堅ニ華鐘ヲ是
也爾雅翼

按ニ東京ノ賦ハ鐘ノ撞ヲ云ナリ爾雅翼東都

ノ字誤ル

海鯨

山堂肆考

鰌 集韻鰌或作鰍字彙鰍鰌俗字六書正譌鰌別作鰍非正字通康熙字典詳カナリ

鰌魚名二月有之 佩文韻府

按ニ鰌ノ字爾雅鰼鰌莊子鰌與魚游ヨリ以下字書多ク泥鰌ノ丁トス故ニ諸書海中ニ生スルノ鰌ヲ海鰌巨鰌ナト稱シテ泥鰌ニ別アリ獨リ佩文韻府ノ如キハ鰌ノ字專ラ海鰌ト

ナシテ解シ其他淵鑑類函格致鏡原等ノ書ノ如キモ鰌ノ下海鰌ヲ主トシテ諸説ヲ載然レハ後世ハ單(ヒトヘ)ニ鰌トノミ稱シタルモ泥鰌ノ丁ニ非ルアリ故ニ見ル所ノ文ニ從テ其實ヲ認ムベシ

鰌魚

按ニ海鰌ヲ鰌魚ト稱シタルト嶺表録異中ニ見エタリ然ルニ本草綱目ニハ鰌魚ヲ專ラ泥鰌ノ丁トナシテ海鰌ヲ附註セリ是亦見ル所

ニ従テ泥鰌ト海鰌トヲ辨別シテ可ナリ

海鰌

鳥獸續考海鰌長者亘百餘里牡蠣聚族其背曠
歳之積崇十許之鰌負以遊鰌背平水即牡蠣峷
屼水面如山矣舶猝遇之如當其首輙震以銃砲
鰌驚徐々而没猶漩渦數里舶頭顛允之乃定人
始有更生之賀 格致鏡原

海鰌最巨能呑舟其來也移若山嶽乍出乍没舟
人相値必鳴金鼓以怖之布米以厭之鰌攸然而
逝否則鮮不罹害聞有斃沙上者土人梯而臠之
刳其脂為油艌舩甚佳 閩中海錯疏

魚之最巨曰海鰌爾舟行逢之不知幾里七日逢
頭九日逢尾産子仲春赤徧海水 異魚図覧

鯨志曰海鰌所以別泥鰌也

按ニ韻會ニ海鰌似鰍而長數十里ト云コレ
鰌ト鰍トヲ以テ二物トス此説謬ル鰍ハ鰌
ノ俗字ナル丁巳ニ上ニ出セリ

今人作舟謂之海鰌舡言如鰌之利水猶古舟之

有鯿魚舡也 爾雅翼

海鰍

赤城志海鰍淳熙五年八月出於寧海縣鐵場港乘潮而上形長十餘丈皮黑如牛揚鬚鼓鬣噴水至半空皆成烟霧人疑其龍也潮退閣泥中不能動但晴嗒々然視人兩日死識者呼為海鰍爭斧其肉煎為油以其脊骨作臼自是海濱人多患疫焉 格致鏡原

按ニ赤城志ニ海鰌ノ肉ヲ煎シ油トナシテ多ク疫ヲ患ト云フ吾ハ之ヲ信セス

海鰍兆火壬午歲忽有海鰍長十餘丈閣於浙江潮沙之上惡少年皆以梯升其背臠割而食之未幾大火人以為此鰍之示妖其說無根辛卯歲十二月二十二三間又有海鰍復大於前者死於浙江亭之沙上於是闕傳將有火災然越二日於二十四日之夜火作於天井巷回々大師家行省間元宮盡在煨燼中凡毀數千家然則溢傳有時可信也 此久考耳此即出於五行志中云海魚臨市必主火災行省即宋秘書省畜書并板甚多

故時人云昔之木天今之火地也○癸辛雜識續集

按ニ海鰍兆火之丁其說実ニ無根論ヲ俟ス

シテ明ナリ是等ノ說ヲ為スハ真ノ海鰍ヲ知ラサルニヨル故ナリ

海槎餘録海鰍乃水族之極大而變異不測者梧川山界有海灣上下五百里横截海面且極其深當三月之交海鰍來此生育隱隱輕雲覆其上淵鑑類函

凡舟或以形名如海鰍江鯿山梭之類凡海舟元朝與國初運米者曰遮洋浅船次者曰鑽風船即海鰍○天工開物

海鰌魚

海鰌魚夷堅志作海鰍魚即海上最偉者也小者亦千餘尺呑舟之說固非謬矣毎歳廣州常發銅船過南安貨易北人有偶求此行往復一年便成斑白云路經調黎地名海心有山阻東海濤險而急亦黄河之三門也深濶處又見十餘山或出或沒初甚訝之篙工曰非山島鰌魚背也果見雙目閃爍鬐鬣若簸米箕危沮之際日中忽雨霖霢舟子曰此鰌魚噴氣水散於空風勢

吹來若兩耳及近魚即鼓船而噪倏爾而没去魚畏鼓物類相伏耳交趾迴乃捨舟取雷州緣岸而帰不憚苦辛蓋避海鰌之難也乃靜思曰設使老鰌瞋目張喙我舟若一葉墜皆井耳寧得不為人皓首乎出嶺表錄異○太平廣記

案ニ旁ク諸書ヲ考ルニ鯨ト海鰌トヲ分テ二物トス來タ同物異名ノ說有ヲ聞カス然レ𪜈其說ク所皆鯨魚ノ丁ト見エタリ故ニ今海鰌ヲ鯨ノ一名トシ鯨ノ次ニ載ス

鯤

兼名苑 本艸和名所引

案ニ鯤莊子ハ北冥ノ大魚トシ拾遺記ニ黑河黑鯤魚長千尺如鯨正字通ニ此二說ヲ以テ寓言トス又正シク鯨ヲ云ヘルニモ非ス唯唐類函南海鯨ノ下ニ於テ拾遺記ノ此說ヲ引タルハ乃チ鯤ヲ以テ鯨トス然レ𪜈旁ク諸書ヲ閲スルニ鯤ヲ鯨ノ一名トスル者ナシ唯琢玉雜字ニ鯤鯨ト連用ス琢玉雜字

ノ書タル固ヨリ据ルニ足ラスト云ヒ兼名苑已ニ鯤ヲ鯨ノ別名トシ又琢玉雜字ニ鯤鯨ト連用スレハ或据ル所アラン故ニ姑ラク兼名苑ニ据リテ之ヲ収ム

鯤鯨

鯤鯨長サ数千尺亦有ニ数百尺一眼睛如シ明月夜珠ノ鼓浪ヲ成レ雷ヲ噴ケハ珠ヲ成スレ雨ヲ生ニ於長江大海ニ琢玉雜字

鰺鰌

水経註

魚王

淮南子已ニ鱷鯢ノ下ニ見エタリ

鱍魚王篇海

海有ニ魚王一是ヲ名ケテ為レ鯨噴ケハ沫ヲ雨注キ鼓スレハ浪ヲ雷驚ク目作リ明月ト精為ル彗星ト異魚図覧

魚伯

兼名苑本艸和名所引

案ニ名義魚王ト同意ナルベシ

又案ニ古今注水君状如シ乗ルカ馬ニ衆魚導従名ク魚

伯ト大水有之ト是全ク魚伯ヲ以テ河伯ノ了
トス然レハ此所謂魚伯同名異物ナルベシ

海鷰

齊鹽官縣石浦有海魚乘潮来去長三十餘丈黒
色無鱗其聲如牛土人呼為海鷰ト出廣古今五行記○太平廣記
鯨志曰本草有一種海鷰與此同名異物
案ニ鄉談雜字ニ海鷰ヲ通音ノ中ニ収ムレ、
ハ海鷰ハ後世天下通用ノ語ト見エタリ

海龍王

鰌魚俗呼海龍王ト瓊州府志

海龍翁

鰌俗呼海龍翁ト雷州府志

浴鯇 鯇音混

風俗記浴鯇一名鰌 潛確類書○繡髦居別集

浮礁

海鰍大者長数十丈海中浮戴如一二里山俗呼
為浮礁舟行避之 寧波府志

介鯨

江賦介鯨乗濤以出入 文選

長鯨

修鯢

吳都賦長鯨吞航修鯢吐浪 爾雅翼曰言其為患同也 ○文選

老鰌

嶺表録異 已ニ上ニ見エタリ

大鰌

史虛白釣磯立談南唐後主時潯陽潮退有一大鰌環體於洲上時々擧首喰喁水自腦而出數日乃死瀕江之人饜食其肉世說以為海神鑿腦取珠因以致斃 格致鏡原

巨鰌 宋史作巨鰍

宋紀宋趙鼎謫珠崖自雷州浮海而南顧見洪濤間紅旗麾々相逐而下疑為海寇或外國兵甲呼問舟人舟人搖手令勿語恐怖之色可掬急入舟披髮持刀出篷背立割其舌出血滴水中戒使臣閉目坐船内凡經兩時頃聞舟人呼曰更生更生乃言曰頃所見巨鰌也能吞舟平生即舟人未嘗

覩 格致鏡原

案ニ介鯨以下ハ海鰌ノ別名ニ非ス皆鯨魚ヲ称シタル語ナリ因テ今此ニ附載ス

又按ニ雜字類編ニ海羊海翁ノ二名ヲ載ス然レ𪜈其出処ヲ知ラサレハ之ヲ此篇ニ著サス姑ラク此事ヲ附記シテ後考ヲ俟ツ

右漢名

案ニ鯨志ニ鰼(シウ)ノ字ヲ収テ海鰌ノ一名トス因テ字書ヲ撿スルニ鰼ハ泥鰌ノ別名トスルハアレ𪜈海鰌ノ一名トスル者ナシ人爾雅鰼鰌ノ註ニ今ノ泥鰌孫炎カ正義ニ鰼ハ尋也尋習シ其泥ニ厭フ其清水ヲ此説ニ据ル時ハ鰼ハ全ク泥鰌ニシテ海鰌ノ義ニ非ス鯨志謬ル今取ラス

訓蒙字會ニ見エタリ

右朝鮮名

摩竭 兼名苑作ル麻竭

雜寶經佛言如意珠是出摩竭大魚口中

海中大魚口可容舟故曰吞舟之魚其名曰摩竭

華夷鳥獸考

摩竭魚

華嚴經

同書惠琳音義此云大體

摩伽羅

梵言摩竭或摩伽羅此云鯨魚 翻譯名義集

摩竭大魚長三百由旬或四百由旬極大者長七百由旬眼如日月鼻如大山口如赤谷 四分律 ○異林

右梵名

ハラヱナ

コンストヲールトブックニ見エタリ

長崎中野忠雄曰ク其義未タ詳カナラス

バレナ

把勒亜魚長數十丈首有二大孔噴水上出淺處得之熬油可數千斤 物理小識

ワルヒス羅甸呼テバレナト云把勒亜ハ此

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

音譯ナリ　増譯采覧異言

セテ

セイテュス

並ニコンストヲールトブックニ見エタリ

中野忠雄曰バラヱナノ一名ナリ

右刺甸（ラテン）名

按ニ刺甸ハ歐羅巴（エウロツパ）洲通用ノ雅言ヲ云

ワル

此物夜國ニ産ス彼呼テワルトスヨンストン

スノ魚譜ニ詳カナリ　鯨漁叢話

右臥児狼徳（クルウンランドソ）名

ワルヒス

マーリンハルマ等ノ書ニ見エタリ

中野忠雄曰ワルハ海ヨリ陸地ヲ望ミタル意ナリ又石垣ナト築上タルヲモ云フ

按ニ此説ノ如クハワルハ支那ニテ浮礁ト云モ同シ意ナルベシ然ルニワルハ夜國ノ語ナレハワルヒスハ夜國ノ語ニ自國ノ語

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

ヲ配シテ用ユト聞フ然ラハ忠雄ノ説ハ和
蘭ニワルト云語ノアルニ依リテカクハ云
ヘルモノナルカ
和蘭人説鯨有ニ大小三種一ワルヘシハ最モ其大者其
次ブレンヘス其次ノルカフル 采覧異言
ワルヘシハ哇爾虚斯ノ轉ブレンヘスハ蒲
魯印虚斯ノ轉ノルカプルハ諾阿爾土加百
児ノ轉ニメ皆鯨魚ノ名ナリ○四明井氏嘗
テ和蘭人ニ鯨果メ三種アルヤ否ヲ問フ和

蘭人答テ曰此類實ニ四種アリ其一ハワル
ヒス二ハブレンヒス三ハカジロット四ハノ
ルカアフルナリ○昌永卧児狼徳ノ地志ヲ
按ニ鯨ノ種類甚多シ三四種ニ止ラス 増譯采覧
異言
ワルヘシ即物理小識云把勒亜是已和蘭語ヘ
シヘス皆魚也ワル把勒一聲之轉方氏蓋得之ヲ
波爾杜尾爾人説ニ也 采覧異言
按ニ把勒亜ノハレナノ音譯ナルヿ山村昌

永ノ説已ニ上ニ出セリ

ト云者ハヒスノ轉ナルベシ和蘭魚ヲ謂テ

虚斯ト云フト是亦島永ノ説ナリ

右和蘭名

ケトウ

環海異聞ニ見エタリ

按ニ其義未タ詳カナラス

右北亜墨利加オンデレイツケ名

按ニオンデレイツケハ仙臺ノ舟子ト

モ漂着シタルナアツカ島辺ノ總名ナ

リオンテレイツケ伊勢白子ノ光太夫

ハアンデレイスカナルベント云ヘ

リト詳カニ環海異聞ニ見エタリ然レハケトウハ北島

地方ノ言ニシテ固ヨリ北亜墨利加一

洲ノ通名ニハ非サルベシ

130
6
72

鯨史稿巻之一

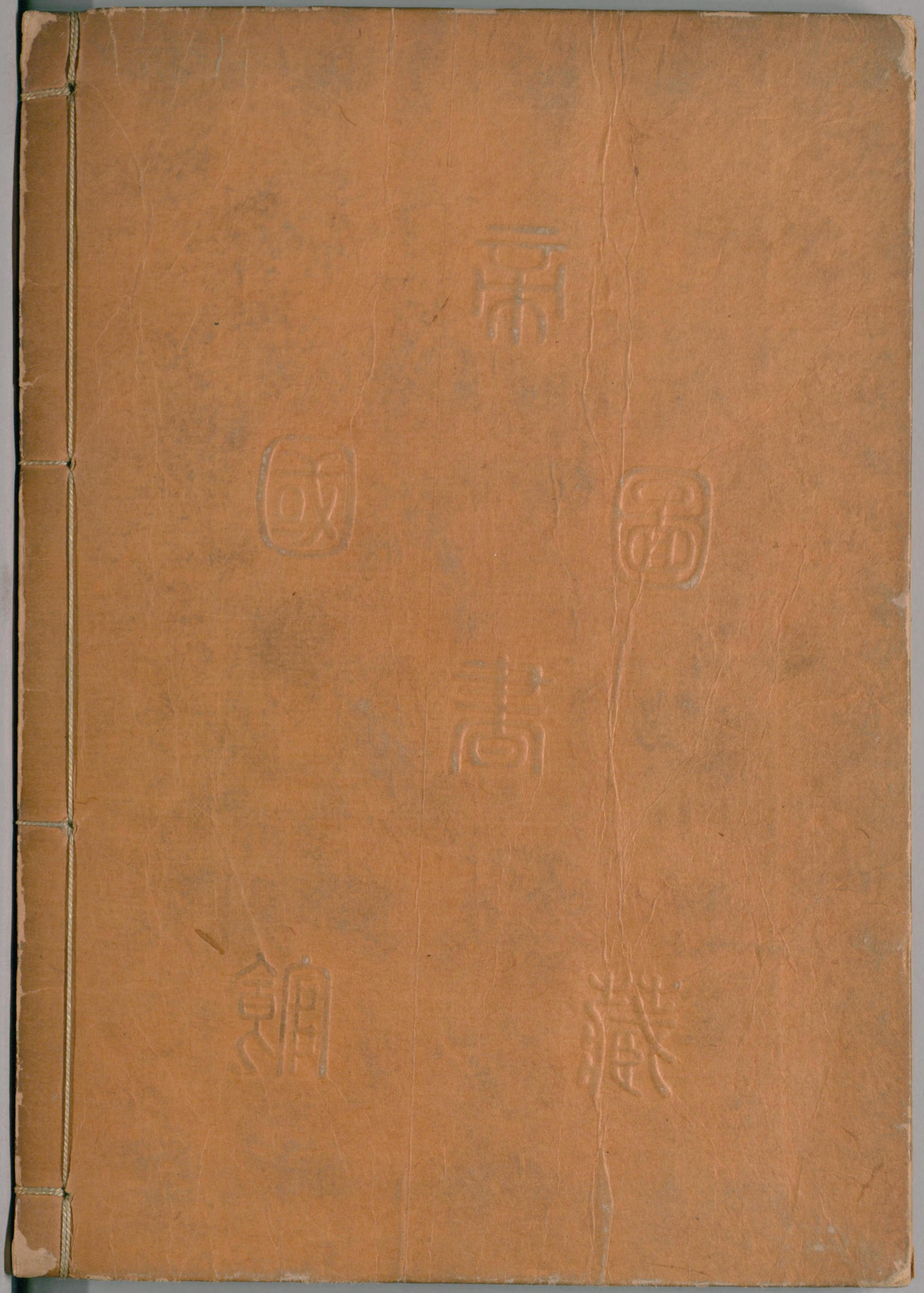
国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72

ガラス使用

130
6
72

国立国会図書館　　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72

ガラス使用